



リベンジは晴天の元

北アルプス 杓子岳双子尾根

栗原

【日時】 2015年4月11日～12日

【メンバー】 吉澤L 野口 栗原

野口君と二人おとしに企画したが、大雪と白馬大雪溪の雪崩事故で小日向のコルで敗退した。今回は、良く晴れた青空の元、誰もいない杓子岳の山頂を楽しみリベンジの山行となった。

4/11 前夜、現地にてテントのポール忘れが発覚。急遽雪洞を掘ることに決まった。午前中は雨が残るとの予報なので、初日は小日向のコル泊まりとして、翌日山頂まで往復する計画に変更になった。

朝、雨が上がるのを待ってゆっくりめの出発。幸い、思ったよりも早く雨が上がり、幸先がいい。この時期は二俣から通行止めになっているので、二俣に車を置いて出発する。途中、工事車両がいると思ったら、その先、除雪が終了となっていた。けれど、雪はそこそこ締まっており、思ったより早く猿倉に到着した。土曜日の悪天の予報のせいもあり、猿倉は静かなものである。

早速尾根に取り付く。おとしは吹雪のためほとんど辺りが見えずに登っていたが、今回はそこそこ視界があり、わかんでさくさく登っていく。が、少々行き過ぎて少しトラバースをして目指す尾根に戻った。それでもおとしよりも半分くらいの時間で小日向のコルに到着した。

さて、雪洞を作りますが、ということで適当な斜面を見つけて掘り出す。が、少々掘ると木の枝が出現した。…しまった、のこぎりがない…。枝に邪魔され、雪の掘り出しのペースが少々ダウン、が、吉澤君がスコップで必死に枝を刈り払いつつ、枝の邪魔しない左奥に掘り進めた。野口・吉澤のハイパワーで、およそ1時間半で雪洞は完成、さすが若い力は違う！

さて、あとは宴会だ！と外で宴会を始めるが、時折見え隠れする太陽は、宴会を始める頃になって雲の影に隠れ、雪洞作りで濡れた身体が少しの風に寒いこと。小1時間外で宴会するが、だんだん耐寒訓練のようになってきたので、諦めて雪洞に避難した。最後の仕上げに天井や壁を平らになめした甲斐もあり、水が垂れたり天井が下がったりすることもなく、雪洞は概ね快適、ただ火を焚いても暖くなる訳ではないのが少々難点か。シュラフを3シーズンに削った私は真ん中に寝かせてもらって寒くはなかったが、野口君は寒かったようだ。



4/12 気温が上がる前に、と気合を入れて4:40頃出発。アイゼンが小気味よく効いて、さくさく進める。樺平は、記録で見たとおり樺の木が1本ぽつんと立っており、印象的な場所だった。そこからはひたすら急登、途中の岩場は右の雪壁から巻けそうだったが、吉澤君が敢えて岩場に突っ込み、全員フリーで慎重に登る。単調な雪の急登にちょっとしたアクセントとなった。

山頂に出ると、視界が開ける。風もなく良く晴れた誰もいない山頂!これ以上ないシチュエーションに、見渡す限りの山々の山座同定が始まる。あれは何だろ、唐松?五竜じゃない?あれは鹿島槍かなあ・・・あつ、劔岳!・・・GWにトライする劔岳に心が躍る。山頂を去るのは名残惜しいが、まだ下りもあるので、惜しみつつ下り始める。少しずつ腐り始めた雪は、うっかりするとアイゼンについてスリッパしそうだ。急な斜面は後ろ向きに

なって慎重にステップを切りながら下る。いい加減ふくらはぎも疲れてくる頃、ようやく樺平にたどり着いた。ここで大休止するが、ポカポカ陽気に、いつまでも腰を落ちつけなくなる。重い腰をようよう上げ、小日向のコルで荷物を回収すると、あとは沢浴いにコースを変え、一気に下まで下った。



【行程】

4/11二俣9:00～猿倉10:40～小日向のコル

13:30 c1

4/12c14:40～樺平5:20～杓子岳8:00～樺平～小日向のコル10:30～二俣12:00

【地図】白馬岳